

(4) 計画から稼働までの期間

各電源における計画から稼働までの期間は、燃料電池（約2週間）、太陽光（住宅用）（2～3か月程度）といった短い電源から、原子力（20年程度）、地熱（9～13年程度）、石炭火力・LNG火力・石油火力（10年程度）といった長い電源まで開きがある（詳細は別添6参照。）。計画期間が長いと、その期間に必要となる金利¹が追加コストとなるほか、その後の需要変動などの事情変更のリスクがある。今回の試算に当たっては、全ての電源に関し、これらのコストやリスクについての分析をするだけの十分な情報が得られず、モデルプラントに係る計画から稼働までのコストについては、今後の検討課題として、今回は電源別の発電コストには上乗せしていない。

¹ 平成11年の電気事業会計規則の改正により、改正前は建設期間中の利子を建設価格として算入しなければならない義務規定となっていたが、改正後は建設期間中の利子の算入は任意となっている。